



Cisco CallManager からのサブスクリバサーバの削除

Cisco CallManager クラスタからサブスクリバサーバを削除するには、Cisco CallManager Administration の Server Configuration ウィンドウを使用します。ただし、この削除操作では、Cisco CallManager Administration データベースからサブスクリバサーバが削除されますが、サーバの依存関係がすべて削除されるわけではありません。

システムからサーバを完全に削除するには、次の手順を実行する必要があります。

1. サーバからすべての依存関係を削除します。たとえば、Cisco CallManager サービスを削除します。P.2-7 の「サーバの削除」を参照してください。



ヒント

依存関係を表示するには、Server Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。

2. Cisco CallManager Administration からサーバを削除します。P.2-7 の「サーバの削除」を参照してください。
3. データベースから SQL 複製情報を削除するスクリプトファイルを実行します。P.B-2 の「SQL 複製情報の削除」を参照してください。
4. Cisco CallManager クラスタがローカル DC Directory と統合されている場合は、パブリッシャから DCD 複製許諾契約を削除するスクリプトファイルを実行します。P.B-4 の「冗長 DCD 複製許諾契約の削除」を参照してください。

SQL 複製情報の削除

Cisco CallManager Administration によってサーバが削除されたら、SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルを実行します。パブリッシャ用およびサブスクリバサーバ用の適切なスクリプト ファイルを実行します。



ヒント

P.B-5 の例 B-1 および P.B-6 の例 B-2 にあるスクリプト ファイルの内容をメモ帳のようなテキスト ファイルにコピーし、.bat 拡張子で保存します（たとえば、*removesubscription.bat* と *removeserverfromDB.bat*）。

パブリッシャの RemoveServerFromDB.bat スクリプトの実行

削除対象のサブスクリバを含むクラスタの Cisco CallManager パブリッシャサーバから RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルを実行します。このスクリプトは、任意のディレクトリのコマンドプロンプトから実行します。



ヒント

スクリプトの実行手順を確認するには、パラメータなしでスクリプトを実行します。

パブリッシャサーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
< スクリプトを保存してあるパス >:\RemoveServerFromDB "server" "database"  
"name_of_server_to_delete_from_database connection string"
```



ヒント

データベース接続文字列の名前を探すには、**Service > Service Parameters** に移動し、Cisco Database Layer Monitor を選択して、**Advanced** をクリックします。その結果、Database Connection String フィールドに名前が表示されます（たとえば、DSN=CiscoCallManager;Server=ABC2）。

コマンドプロンプトからこのコマンドを実行すると、エラーメッセージが表示され、個別のエラーログファイルは生成されません。

スクリプトファイルの内容を確認するには、P.B-5 の「[RemoveServerFromDB.bat スクリプトファイルの内容](#)」を参照してください。

サブスクリバの RemoveSubscription.bat スクリプトの実行

削除対象の Cisco CallManager サブスクリバサーバから RemoveSubscription.bat スクリプトファイルを実行します。このスクリプトは、任意のディレクトリのコマンドプロンプトから実行します。



ヒント

スクリプトの実行手順を確認するには、パラメータなしでスクリプトを実行します。

サブスクリバサーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

<スクリプトを保存してあるパス>\RemoveSubscription “server” “database”

コマンドプロンプトからこのコマンドを実行すると、エラーメッセージが表示され、個別のエラーログファイルは生成されません。

スクリプトファイルの内容を確認するには、P.B-6 の「[RemoveSubscription.bat スクリプトファイルの内容](#)」を参照してください。

冗長 DCD 複製許諾契約の削除

クラスタからサブスクリバサーバが削除されたら、`clean_publisher` スクリプトを実行して、パブリッシャ DCD から DCD 複製情報を消去します。このスクリプトは、パブリッシャサーバのみで実行されます。

Cisco CallManager Release 3.3 以降でこのスクリプトを入手できます。このスクリプトは、Cisco Directory コンポーネントのインストール時に Cisco CallManager サーバにインストールされます。

パブリッシャサーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
c:\Clean_publisher.cmd
```

このスクリプト ファイルは、削除されたすべてのサブスクリバの複製許諾契約をパブリッシャ DCD から削除します。このとき、既存のデータが削除されたり変更されたりすることはありません。



(注)

管理者が、`Clean_publisher.cmd` スクリプトを実行せずにサーバを削除した後に、元のクラスタに対して同じホスト名でサーバを追加し直した場合、サブスクリバ DCD の設定に使用される DCD スクリプトは、サーバへの Cisco CallManager の Directory のインストール時に、以前の DCD 複製許諾契約をパブリッシャ DCD データベースから消去します。

RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルの内容

例 B-1 に、パブリッシャ サーバから SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルの内容を示します。

例 B-1 スクリプト ファイルの内容

```
@echo off
@if "%3x" == "x" goto Usage
echo Install stored procedure in database %2

echo USE %2 > temp.sql
echo GO >> temp.sql
echo sp_dropsublication @publication = %2, @subscriber = '%3', @article='all' >> temp1.sql
echo GO >> temp1.sql
osql -S %1 -d %2 -E -e -i temp1.sql

del temp1.sql

goto endd
:Usage
@echo Usage: RemoveServerFromDB "server" "database"
"name_of_server_to_delete_from_ProcessNode.Name"
@echo Example: RemoveServerFromDB . CCM0300 fred.cisco.com
:end
```

RemoveSubscription.bat スクリプト ファイルの内容

例 B-2 に、サブスクリバサーバから SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルの内容を示します。

例 B-2 スクリプト ファイルの内容

```
@echo off
@if "%2x" == "x" goto Usage
echo Install stored procedure in database %2

echo sp_removedbreplication @dbname = %2 > templ.sql
echo GO >> templ.sql
osql -S %1 -d %2 -E -e -i templ.sql

del templ.sql

goto endd
:Usage
@echo Usage: RemoveSubscription "server" "database"
@echo Example: RemoveSubscription . CCM0300
:endd
```